

石段の奉納

本年もご講中のご尽力により、石段をご奉納いただきました。片柳統一社中の道場講中、新栄講中、上原・堀の内・辻講中、石神講中、西分講中、野火止聯合講中、八軒講中、中原講中の皆様方により、随身門下23段門上4段が改修されました。今後とも石段整備事業として、皆様方のご協賛をお願い申し上げます。

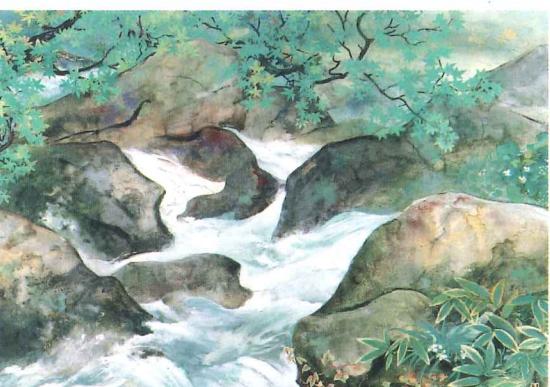


甲源一刀流・刀道修行者奉額

六月十七日（日）青梅古武道奨励保存会（会長平岡邦武氏）と全日本刀道連盟（顧問 錬心館 阿部雅司氏）の皆様により、甲源一刀流、刀道修行者の奉額がありました。

当日は梅雨時にもかかわらず薄日も見える日和で、黒田宮司以下奉納奉告祭と除幕式、そして保存会、刀道連盟の皆様による奉納演武が厳かにかつ盛大に執行されました。

彫刻が施され、武道家の心を具現した立派な額が拝殿回廊にかけられましたので、参拝の折は是非ご覧下さい。



新緑の響

昨秋当社宝物殿にて特別展を行った『結城天童』画伯により、第34回東方展出展の『新緑の響』をご寄贈いただいた。

先生は大正二年に山形県で生まれ、関西美術を卒業後川端龍子先生に師事、先生より雅号「天童」を授かる。昭和四十二年東方美術協会創立に参加、その後生々会を創立するなど、第一線で活躍中。

峰中修行
三月、六月、八月と三回各一泊二日で行われた。

一日目は「綾広の滝」で禊行を行い、夜は神社拝殿にて大祓行法、二日目は早朝禊行の後、奥の院山駆けを行った。

次回は十月二十日の予定で、今後も継続して行いますので、多くの方の参加をお待ちしております。なお詳細は、社務所までお問い合わせください。

「浦安の舞」講習会
八月二十日から二十三日までの四日間、途中台風のため半日の中断がありました。舞の習得は難しく、了しました。今回の講習だけで舞えるわけではありませんが、参加者は全員熱心に受講し、将来、立派な「舞姫」となる事でしょう。

この「浦安の舞」は、十月六日、七日の「薪神楽」でご覧になります。



玉垣内案内

本殿の真後ろには伊勢神宮を祀る『神明社』。

ここの中手上『北野社』は、昔地元の子供たちが書を奉納し、学問向上を願った菅原道真公を祀る天神様。

この向かいの『巨福社』周りのお砂が大変御利益あると『神山靈土』歌碑に詠まれて

いる。東照社の左にあるこの歌碑は明治二十一年建立で、題字を外務

卿副島種臣、歌を国学維新の立役者が挿い、

これを見るためだけに

訪れる方もいる。

そして一番奥には『大口真神社』狼を祀るこのお社、昔は神饌を上

げる台だけだったものが、江戸の末期に社が建てられ、現在の社殿は昭和十四年に宮大工がたつた一

作の豊凶を占う我が国最古の占

神社と当社に伝わるだけである。

農家の方だけでなく、作物のでき

から天気を予報する方もいる。

大口真神社の階段を下りた左手、拝下さ

る。これは手前から春日社、八幡社、

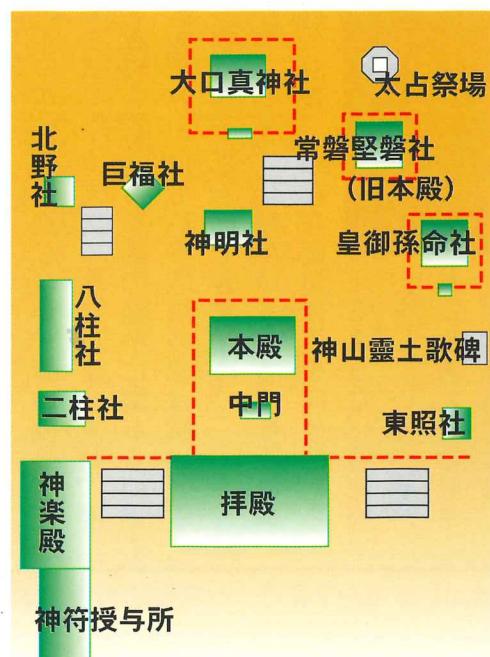
鷲養社、八雲社、座摩社、月乃社、

國造社、八神社と並ぶ。座摩社

は宮中にも祀られ屋敷を守る神。

八神社も天皇守護のため宮中に奉

斎される長寿の神。



人で彫刻まで手がけた。神門と玉垣は昭和四十一年の台風で壊され三年前に復元された。日本武尊を祀る奥宮まで参拝できない方は、この奥より遙拝ができる。

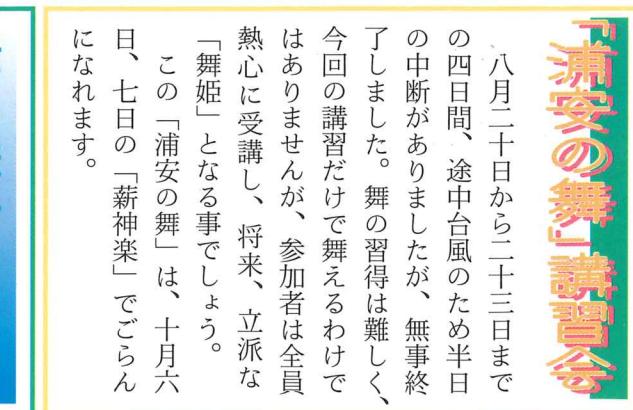
ところが太占祭場。儀式は一月三日早朝行われるが、これは占いをする当社主祭神「櫛真智命」に因むもの。中央の炉で鹿の骨を焼き

ところがわかる。平成七年の台風で門・灯籠・狛犬がつぶれ、四年前に修復された。新しく見えるが、材料はほとんどの江戸後期のもの。現在の東照社は手前に移された。

このように当社玉垣内をお参りすると、全國の主要な神社をお参りしたことにもなります。一月一日から二月までの午前九時から午後五時の間に限り、どなたでもご覧いただけますので、初詣の折は是非ご参拝ください。

この右手の複雑な屋根のお社は京都指定文化財・旧本殿『常磐社』。ここには全国の一の宮（各國で最も由緒ある神社）が祀られている。現在の本殿が明治十一年に立て替えられた際、そのままの建物。

この絵は玉堂美術館付近の多摩川を描いた150号（175cm×240cm）の大作で、十月より宝物殿にて公開される。



「浦安の舞」講習会
八月二十日から二十三日までの四日間、途中台風のため半日の中断がありました。舞の習得は難しく、了しました。今回の講習だけで舞えるわけではありませんが、参加者は全員熱心に受講し、将来、立派な「舞姫」となる事でしょう。

この「浦安の舞」は、十月六日、七日の「薪神楽」でご覧になります。